

議決権の行使についての参考書類

第1号議案 第6期営業報告書案承認の件

営業報告書

(平成22年10月 1 日から平成23年 9 月30日まで)

1. 営業の概況(営業の経過および成果、今後の取組みへ向けて)

今期の当社での最大の問題は、設立時から使用しておりました(途中で場所の移動はありましたが)、愛媛大学内のオフィス(作業室を含む)を、大学側の要求によって、大学外に移動する必要が生じたことです。ごく短期間での移動を迫られましたが、幸いにして、大学キャンパス内と言ってもおかしくないくらいに、大学キャンパスからほど近い場所に、比較的安価なオフィス用空き部屋があり、3月には移転を完了することが出来ました。敷金や移転用経費は必要でしたが、オフィスの総面積は、キャンパス内の旧オフィスより少しですが広く、月々支払う室料も、以前より少し高価になった程度でした。電気代金等の支払いも、キャンパス内時代よりも安価になっておりますので、月々の支払い額は、以前より少し増えた程度です。逆に、完全にオフィスもキャンパス外に出ましたので、色々の面で、あまり大学に気兼ねをする必要もなくなったことや、大学各部局からの発注にも、普通の企業のように対応できる可能性が高まった等の利点も多々あります。業務を遂行しております学生たちも、従来通り、ゼミの合間等の空き時間にオフィスにやってきて作業を行っております。

さて、このようなオフィスの移転ということがありました。今期も、前期に引き続き、営業的にはそれなりの活動を行い、期末に利益を計上することができました。これは、ひとえに株主の皆様方の温かいご支援によるものと感謝しております。まだまだ、設立当初から数期間の借入金の返済を行っていかなくてははいませんが、今後も、継続して営業強化を行ってまいりる所存ですので、増々のご支援をお願い申し上げます。このような方向の強化に努め、当社設立の目的であります、愛媛大学で満足されるIT系のシステムやホームページその他の安価での供給や、スタッフとして活躍する大学院生等に実学体験を与えること等を、一層努力していきたいと思っております。

今期に当社が取り扱いました主な事業は、基本的には前期と同様の分野に大別されます。それらは、愛媛大学で必要とされるITを活用した各種情報システムの作成、愛媛大学内の各種ホームページ(ウェブサイト)の作成、e-Learningのシステムとコンテンツ(教材)の作成等です。いくつかの特色ある事業について簡単にまとめさせていただきます。

まず、前期から取り組んでおります、医学部及び附属病院の「感染管理システム」の実運用が目前になっていることがあります。さらに、現在は、医学部看護学科での「ティーチング・ポートフォリオ」の開発にも努力しており、以前の「動物実験申請審査システム」や、四国がんセンターでの「研修医ポートフォリオシステム」等に続いて、医学系分野でのシステム開発が一つの柱になりつつあります。もちろん、前期から継続して開発を行っております、農学部「食事バランスチェックシステム」を中心とする「食育システム」、同じく農学部の「地域活性化ツインプログラム」、「学び直しプロジェクト」でのインターンシップ学生対応の簡易ポートフォリオシステム等の発展に加えて、農学部関連では、今期には、大きく分けて3つの新しい課題の成功のためにも力を尽くしております。それらは、愛媛大学が全国に誇ります「植物

工場」関連のシステム開発で、植物工場での各種栽培データからの統計解析等を行い、今後の植物工場の発展に寄与するとともに、関連の人材育成を行おうとするものです。当然、対応するウェブサイトの開発も行っております。また、これも愛媛ならではの、文部科学省関連の新規事業の「森林環境管理特別コース(農学研究科修士課程)」に関して、事業を周知徹底させることと、学生募集のためのDVD作成およびウェブサイトの開発です。さらに、南予水産研究センターと愛媛県産業振興財団が協同する「養殖魚販売」に関する社会実験への参画で、トレーサビリティを有効に活用した愛媛県特産の養殖魚を全国に広めようとする事業の一端を担わせていただいています。ここでの、一般家庭向けに、携帯電話で検索可能な養殖魚(マハタ)の美味しい食べ方や調理法等料理レシピの作成時点では、愛媛大学生協の全面的協力を受けましたことを付け加えておきます。この種のIT系システムといたしまして、教育学部でのフレンドシップ事業に対応する「FICシステム」(地域の各種機関からの、学生派遣の要請を受けて、希望学生の選択や、事後の報告を行うシステム)、前期から継続の、理工学研究科(理学系)での「未来の科学者養成講座」のためのポートフォリオとeラーニングシステム等はもちろんとして、工学部でも、授業中に携帯電話やスマートフォンを利用して、簡単なアンケートの回答をさせ、結果を即時表示できるような授業支援システムの依頼を受けております。

以上は、愛媛大学を中心とする情報システムですが、愛媛大学内で受注してまいりましたウェブサイトに関しましては、前期に発注をいただいた、法文学部の司法コースのものは完了し、さらに別件の発注も受け、従来からのものとあわせ、愛媛大学の全学部からの受注を受けたこととなります。教育学生支援機構の一部の修正等も新規に対応させていただいています。愛媛大学ミュージアムや放送大学愛媛学習センター等のウェブサイトでの維持管理や変更・強化等の支援も継続しております。前期からの「卒業アルバム検索システム」(愛媛大学ミュージアムからの発注)も、新規に各年度分を追加していくことになっております。なお、「ウェブサイト”Web Site”」の語に関して、少し触れておきます。これは、一般には「ホームページ」と呼ばれていますが、この分野の先進国のアメリカでは、“Home Page”の略称が、著名なコンピュータ開発会社と同一になることで、“Web Site”の用語に統一しています。愛媛大学の場合も、上のコンピュータ開発会社製のコンピュータシステムが、情報基盤システムの中核でありますので、混同を避ける意味で「ウェブサイト」を使わせていただきます。

この他、当初からシステム開発やウェブサイト作成を行ってまいりました、全国の大学・高専・高校・専門学校の学生・生徒対象の、愛媛大学と松山市が共催しますプログラミングコンテスト「epoch@まつやま2010」も無事終了し、現在は、本株主総会直後の11月26、27日に本選開催予定の「epoch@まつやま2011」(第5回)へ向けての最終調整も順調に進んでおります。今期も、場所とPCだけは、総合情報メディアセンターを利用しますが、予選・本選を通じてのサーバは、当社のサーバを使用しています。また、前期からの共通教育「情報科学」のeラーニング用教材作成、及びオンラインテストの試験問題の作成を行っております。これらに関します、著作権処理や愛媛大学からの代金支払い等につきましては、教科書の作成元であります日経BP社との協議も順調に終了しております。総合情報メディアセンターを中心とします「愛媛大学情報基盤システム」の常駐保守体制支援も継続しており、日々の運用状況を確認しております。この間で、残念でしたのは、従来から強く支援していく計画でした愛媛大学校友会のデータベース等に関し、同事務局の単独判断で、当社の計画が破棄されたことです。いろいろ問題もありましたが、現状が変更されるまでは、愛媛大学校友会事務局との直接的関係は無くなります。

以上のような、各種業務では、広範な情報技術を活用する必要があり、開発担当として、当社に所属します大学院生や学部学生(e-CISスタッフ)の、まさに実学体験の貴重な場となっています。技術的には、全国に展開します多くのIT系企業と大きな違いはありませんが、上のような、愛媛大学関連のシステムの場合は、当社が愛媛大学での教育・研究の在り方を熟知しております点で、国内他社以上に、現場に密着したシステム提供が可能であると自負しております。特に、情報系で国内最大の学会組織であります「情報処理学会」でも盛んに触れられていますが、文部科学省や経済産業省が連携して、高度IT人材育成の方向性を模索しており、その中で、最重要な課題として、情報系学生に実際社会の状況を知らしめることの重要性が特に指摘されています。その意味では、当社の方向はまさに時代に適合していると言えそうです。

なお、上でも、いくつか言葉が出始めております「e-ポートフォリオ」に関して、簡単に触れておきます。教育現場でのアンケート、ミニテスト、作品その他は、従来は紙文書で提出させていましたが、これをIT化しますと、教員との対応も即時的に近づき、かつ提出物の保存も楽で、経年変化等も見やすい等の利点があります。このような「e-ポートフォリオ」を「ラーニング・ポートフォリオ」と呼んでいます。一方で、教員側でも、授業や実習での指導経験等を共有したり、学生からの反応をみて、教育改善に用いることができます。これが「ティーチング・ポートフォリオ」です。当社の場合は、取締役の野田が愛媛大学在職中から、「e-ポートフォリオ」の重要性を指摘しており、各種の知識を有していることから、すぐにでもシステム化できる素材として準備を重ねておりましたので、愛媛大学内で「e-ポートフォリオ」の導入気運が高まれば、教育現場に密着した良いシステムを提供できるものと思っております。また、数年前に小松前愛媛大学長がご退任の挨拶の中でも、その重要性に触れておられました。当社でも、すぐにでも受注がと準備しておりました。しかし、残念ながら、しばらくの間は愛媛大学内でも、大きな動きになっておりませんでした。やっと今期あたりから、動き始めると思われますが、むしろ、当社では、愛媛大学内の各教員等に「もう導入しなければ、全国的に後発大学になりますよ」と訴えて、導入を急いでいただこうと思っております。

このように、今期の当社の業務も、前期同様に、「愛媛大学の状況を熟知して、愛媛大学に適した便利な情報システムやウェブサイトの開発」という、当社の設立目的の一つに合致する方向を強めることができている。また、もう一つの目標であります「愛媛大学の大学院生や学生に、IT分野の実学体験を与える」も、特に大学院生がプロジェクトリーダーとなって、各業務の推進に努力しており、上でも述べましたように、時代の最先端を歩んでいるともいえます。また、この前段階として、人材育成の観点から、工学部情報工学科の3年次学生のインターンシップ等を引き受けております。

最後に、前期までの各期に問題としてまいりました「利益相反」問題による、愛媛大学との直接の契約の困難さについてのご報告をしておきます。今期の業績の大半は、決算時期の問題で、以前と同様に、株式会社パルソフトウェアサービスその他の友好的な企業の皆様のご助力に頼ってまいりました。しかし、最初に述べましたように、愛媛大学から、事務室・作業室を学外に移転することを要請され、4月末には、それに従いました。従来から、学内の部屋を、室料や光熱費も支払いつつ使用させていただいておりましたが、今期の途中からは、愛媛大学のキャンパス外にオフィスも移動しましたので、基本的には「利益相反」の恐れは皆無になったと思われます。新しい、業務に関しましては、その方向で、愛媛大学に直接契約を行う方向を目指しております。もちろん、多くの面で、従来通りに、株式会社パルソフトウェアサービスその他の企業の皆様との協力関係も強化してまいります。愛媛大学

から、学外移転を命じられたことも、ある意味では良い方向に出来れば問題はなくなるかもしれません。

各種の問題解決を図りつつ、今期に行いました各種業務の方向性を保ち、各々での業務をさらに発展させ、来期以降の業績拡大につなげていきたいと思っております。株主の皆様からの、一層のご支援を期待しております。

なお、株主の皆様方からもご要望が出ております、株式配当に関しましては、初期からの累積赤字の解消後ということでございますので、前期に引き続き、今期も残念ながら見送らざるを得ません。少しでも早く、皆様方のご要望にお応えできますように、努力を重ねてまいりますので、今少しお待ちください。

(3) 業績および財産の状況の推移ならびにその説明

(以下の数値は、単位＝千円(税込)で表示しております)

売上高(千円)	15,020	(前期比	734)
愛媛大学内各種情報システムの開発、ウェブサイト設計・制作、e-Learning 関係、e-ポートフォリオシステムの開発等				
売上原価(千円)	1,712	(前期比	120)
e-CISスタッフ給与				
総経費(千円)	7,044	(前期比	△ 1,828)
法人税等を含む				
当期純利益(千円)	6,264	(前期比	1,713)
当期末未処分利益(千円)	△ 22,452	(前期比	△ 6,265)

なお、第6期の決算報告書として、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、同(内訳)、及び決算方法を記した個別注記表を同封いたします。

第3号議案 取締役及び監査役の報酬額の決定に関する件

当社が取締役及び監査役に、本年10月1日から明年9月30日までに支払うべき報酬等の額の上限は1,500万円とします。